

2-1 「恋」の不思議

恋とは何か。

それを定義するのはやっかいです。

☞ *It's difficult to define love; all we can say is, that in the soul it is a desire to rule, in the mind it is a sympathy, and in the body it is a hidden and delicate wish to possess what we love — Plus many mysteries.*¹

恋を定義するのは難しい。しいていえば、心においては支配の情熱、知においては共感、そして肉体においては所有したいとする欲望にほかならない。いったいに、恋は不思議で満ち充ちている。

—La Rochefoucauld (→p.039)

俗に「恋に落ちる」(fall in love) という。恋は「落ちるもの」なのです。ふと気がついてみたら、すでに恋に落ちている。それが恋というものらしい。

恋をすると、相手の欠点が見えなくなってしまう。そればかりか、好かれようとして、ついつい自分を“盛って”しまう。結果、気づいてみれば、自分のことばかりしゃべっている。

次もやはり、ラ・ロシェフコーの言葉です。

☞ *The reason lovers are never tired of each other is this: they're always talking about themselves.*²

恋人同士が一緒にいて少しも飽きないのは、ずっと自分のことばかり話しているからだ。

恋人たちは自分を飾りたててご満悦なのです。しかし、彼らにも悩みがないわけではありません。相手が気になり始めたときからす

でに苦しみは始まっています。恋の成就を願って、あるいは愛を失うことを恐れて、たえず不安な気持ちでいっぱいです。

☞ *Those who have courage to love should have courage to suffer.*³

恋する勇気がある者は苦しむ勇気をもつ。

—Anthony Trollope (アンソニー・トロロープ: 1815-1882)
イギリスの小説家

恋には苦しみがともなう。だから、苦しむ勇気をもてという。だったら……恋をしなければよいではないか。しかし、そう考えるのは早計です。

☞ *To love is to suffer. To avoid suffering one must not love. But then one suffers from not loving.*⁴

恋することは苦しむことだ。苦しむたくないのなら、恋をしてはいけぬ。でも、そうすると、恋をしていないということでもまた苦しむことになる。

—Woody Allen (ウディ・アレン: 1935-) アメリカの映画監督・俳優

私生活では、ダイアン・キートンやミア・ファローなどの女優と恋に落ち、その破局のあとも恋愛をくりかえしたウディ・アレンだけに説得力があります。

語句注

1. All we can say is ... 「わたしたちにいえることは……だ・しいていうと……だ」 rule A 「Aを支配する・Aを牛耳る」 2. be tired of A 「Aに飽きる・Aにうんざりする」 3. those who ... 「……する人びと」 should do 「……するはずだ」 4. suffer from not ~ing 「～していないことに苦しむ」

2-2 「孤独」と「結婚」

こと結婚に関していえば、ことわざは別人と化す。ふつう名句や金言は甲という考えもあれば乙という見方もあるという中立的かつ穏健の態度をとるのですが、こと結婚となると、冷静さを失ってしまします。まさにその意気込みたるや、必死の形相といった観があります。有名どころでは、こんなのがあります。

☞ *Marry in haste, and repent at leisure.*¹

あわてて結婚すれば、じっくり悔やむことになる。

人口に膾炙(かいし)しているものは、おしなべて結婚に対して悲観的な態度をとるのです。

☞ *Bachelors know more about women than married men. That's why they are bachelors.*²

独身者のほうが結婚した男より、女についてよく知っている。だからこそ、彼らは独身者なのだ。

—Henry Mencken (ヘンリー・メンケン: 1880-1956)
アメリカのジャーナリスト

☞ *Marriage is not a word. It's a sentence.*³

「結婚」はワード(単語)ではない。センテンス(判決文)だ。

これらは、いまはジョークとして有名ですが、ことわざに格上げされる日も近いのではないのでしょうか。

結婚するなという声がかれほど大きいのに、結婚してしまうのはなぜでしょう。この難問に明快な答えをだした人がいます。

☞ *The dread of loneliness is greater than the fear of bondage, so we get married.*⁴

孤独に対する恐怖は、結婚による束縛よりも大きいので、わたしたちは結婚するのである。

—Cyril Connolly (シリル・コノリー: 1903-1974) イギリスの作家

束縛よりも孤独の恐怖のほうが大きいので、わたしたちは結婚するのだという。しかし、より大きな孤独が結婚後に待ちかまえているかもしれません。

☞ *If you are afraid of loneliness, do not marry.*⁵

孤独が恐ろしかったら、結婚するな。

—Anton Chekhov (アントン・チェーホフ: 1860-1904) ロシアの劇作家

チェーホフ先生はかように申しています。チェーホフの妻は女優で、彼の書いた劇のヒロイン役をよく演じました。はたから見ると仲睦まじく見えた二人でしたが、彼の心は孤独を伴侶(はんり)としていたようです。

男女の関係をつくりだしたのは神の御業(ごわざ)だとする御仁もいます。

☞ *God created man, and finding him not sufficiently alone, gave him a female companion so that he might feel his solitude more acutely.*⁶

神は男性を創造したが、孤独さが足りないのを見てとって、孤独をもっと切実に感じるように女性という伴侶を与えた。

—Paul Valery (ポール・ヴァレリー: 1871-1945) フランスの作家

語句注

1. 命令文 + and ... 「～しなさい。そうすれば……」 in haste 「急いで・あわてて」 at leisure 「ゆっくりと・時間をかけて」 2. That's why ... そんなわけで……」 3. sentence 「①文 ②判決・宣告」 4. dread 「(悪いことが起こるのではないかという) 恐れ」 fear 「恐怖・恐れ」 bondage 「束縛・隷属」 5. be afraid of A 「Aを恐れる・Aを怖がる」 6. so that S may ... 「Sが……するように」 acutely 「激しく・ひどく・鋭く」 solitude 「ひとり寂しくいること・孤独」